

青海高原新石器時代の集落と墓地の研究

A Study on the Settlement and the Grave of the New Stone Age in the Qinghai plateau

王 妙 発

Miaofa WANG

（一）前言

本稿の資料は、すべて『中国文物地図集・青海分冊』（以下『青海』と略す⁽¹⁾）によるものである。

青海高原の先史集落遺跡が主に東部の黄河流域及び青海湖の一帯に集中している。これは青海湖より西及び南は主に海拔の高い高原と山地であるからである。たとえ今日でも、この一帯は人家がまばらであり、先史時代の人類の遺跡も多くはないと考えられる。

『青海』によると、青海高原で発見されている新石器時代の各時期の遺跡（集落・墓地）は全部で1003ヶ所がある。それは、ほぼすべてが馬家窯文化に属す遺跡であり、それぞれ馬家窯－半山－馬廠との三つのタイプ（時期）に細分することができる。馬家窯文化以外の新石器時代の考古文化タイプは、民和県硤口大莊の廟底溝文化に属す遺跡と、循化県西溝大莊の石嶺下文化に属す遺跡という二ヶ所しかない。故に、青海高原の新石器時代は馬家窯文化時代と言っても過言ではない。

この1003ヶ所の遺跡と墓地は二種類に分けることができる。一つは複数の考古年代（文化）の遺物の積み重なったもので、新石器時代の遺物も含まれて、計595ヶ所がある。もう一つはいわゆる「単純な新石器時代」のもので、408ヶ所がある。

第二種類の408ヶ所はさらに二つのタイプに分けられる。一つは新石器時代各時期（各タイプ・類型）の遺物の積み重なったもので、もう一つは「新石器時代のある文化タイプ（時期）のみ」のものである。この「単独文化タイプ」のものには集落遺跡が251ヶ所あり、墓地が81ヶ所ある（付表参照）。本稿は、この「単純（単独）文化タイプ」の251ヶ所の集落（遺跡）と81ヶ所の墓地（遺跡）に対する研究である。

本稿の研究方法について幾つかの説明をして置く。集落遺跡に対しては、集落の規模（遺跡面積）と集落の存続時間（遺物包含層）との二つの角度から検討をし、墓地に対しては規模（面積）の検討をする。また、墓地の規模と集落の規模との関係についても検討をしたい。

（1）『中国文物地図集青海分冊』、国家文物局主編、青海省文化庁編修、中国地図出版社1996年1月。

なお、集落の規模（面積）は100万㎡以上の超大型集落－10万㎡以上の大型集落－5万㎡以上の中型集落－5万㎡未満の小型の集落－1万㎡（1万㎡を含む）以下の最小型集落で分類する。また、次の文中に場合によっては簡略の「集落」だけで「集落の遺跡」を表現することがある。

（二）馬家窯文化時期

青海高原に単純な馬家窯時期の集落遺跡は109ヶ所があり、墓地は10ヶ所ある（付表の1－A，1－Bを参照）。

（1）集落

a. 規模（面積）

単純な馬家窯時期の109ヶ所の集落遺跡を細分すると、面積の「不詳」のものは9ヶ所で、面積データのあるものは100ヶ所である（付表1－A）。

この100ヶ所の集落遺跡の中に、100万㎡以上の超大型集落がない。面積が最大のものは18万㎡（興海県羊圈台）で、その次は10.5万㎡（大通県後子河）である。10万㎡を上回る大型集落はこの2ヶ所だけで、面積データのある100ヶ所の中で2％を占め、この時期の全部の109ヶ所の1.8％を占める。

5万㎡以上、10万㎡未満の中型集落は全部で7ヶ所、それぞれ7％，6％を占める。

残りの91ヶ所はすべて5万㎡未満の小型集落で、それぞれ91％，84％を占める。また、この91ヶ所の小型集落の中で、1万㎡（1万㎡を含む）以下のものが最も多く、50ヶ所で、54.9％を占める。また、集落遺跡の全部109ヶ所に46％を占めている。

最も検討価値のあるものはある地域の代表的な集落遺跡であると強調したいが、ここでは小型集落の54.9％（全部109ヶ所の46％）を占める1万㎡以下の最小型集落遺跡が、馬家窯文化時期の代表的な集落の規模だと考えることができる。

また、最小面積のものは200㎡である（貴南県麻尼湾）。集落としてこの面積に疑問を感じるが、長い歳月を経て、激しい破損を受けていたためではないかと思われる。

b. 存続時間（遺物包含層）

109ヶ所の馬家窯文化時期の集落遺跡の中で、遺物包含層の厚さデータのあるものは66ヶ所で、残りの43ヶ所は厚さが「不詳」とされるかあるいは表示されていない（空白）（付表1－A）。

最も厚いところは1.5m－2.5mがあり（互助県黒鼻崖），最も薄いのは0.1mである（興海県羊圈台）。

遺物包含層の厚さが1m以上は18ヶ所あり、厚さのデータのあるものの中で27％を占める。圧倒的な多数を占めるのは1m未満のもので、48ヶ所あり、同72％を占める。

では、厚さと遺跡面積との関係を検討して見よう。厚さ最大の互助県黒鼻崖遺跡（1.5－

付表1 馬家窯文化馬家窯類型（単純）集落・墓地表

1-A 集落表

遺跡名	面積（万㎡）	遺物包含層（m）
（西寧市）		
下孫家娼	6	0.5～1.2
（大通県）		
後子河	10.5	0.5
常寧西	7	1.7
（楽都県）		
沙壩	0.75	0.6
蘇家	0.5	1.6
東早台	1.5	0.5
後山	0.6	0.6
下街	1.8	0.5～1
前坝子	1.5	0.5
趙家莊	0.4	0.6
下貢湾	3	不詳
峡門	0.5	0.5～1
聯星	0.75	1
童家	1.2	0.5
米家湾	0.7	0.5～0.8
湟中寺爾寨	2	0.7
（民和県）		
哼堂村北	1.5	0.2～0.5
石灰窟	0.2	1～2
東三台	不詳	不詳
関塬南	2	0.5～1
鄧槽湾	0.35	不詳
旱台	不詳	不詳
古岱東	3	1～1.5
三岔西南	2	不詳
灰拉拉塬	1.8	0.2～0.4
武家	6	不詳
小塬	2	0.4
李家山西	0.8	不詳
白崖	6	不詳
上塬	6	不詳
柴溝	0.3	不詳
脱谷嶺	不詳	不詳
前坪	不詳	不詳
老爺泉	0.75	0.5～1
上牙洒南	不詳	不詳
塘卡陽山	1.2	2～2.5
旱地台	2.25	1～2.5
安家東北	1.2	不詳
下川口西南	0.5	不詳
馬聚塬南	0.6	0.3～1
馬聚塬	2	1～2
前頭台	5	不詳
上木台	0.15	不詳
河西庄東南	0.4	不詳

遺跡名	面積（万㎡）	遺物包含層（m）
大馬家西	0.48	不詳
大庄四台	0.15	0.5～0.7
缺口大庄東	3	不詳
馬家堡	1.2	不詳
祁家塬	0.8	不詳
（互助県）		
黑鼻崖	1.2	1.5～2.5
孫家	0.36	0.15～0.6
加唐	0.5	不詳
（化隆県）		
沙隆卡	2.4	0.7
公義	0.4	0.4
貢什加	1.05	不詳
朱乎隆	6	不詳
尕雜米灘	1	不詳
上哆吧	2	0.85
参果灘	0.35	0.5
哇家灘村西	1.2	0.5
哇家灘	0.5	0.5
蘇隆柱	0.48	不詳
河北	0.6	不詳
正尕	1	0.5
曹家	2.5	0.3～0.5
（循化県）		
西溝大庄	0.6	0.5
草花細	0.425	0.5
尕拉	0.25	0.4
斜昌溝	2.5	0.4
果什灘南	0.48	0.2
新河北村西	0.25	0.7
大寺古	0.6	0.4
丹麻嘴	0.24	0.3
賀隆	0.25	0.3
洋浪麻塘	3.35	0.8
拱北峡	0.25	不詳
三麻里東	1.5	不詳
（同仁県）		
土干木	0.28	0.7
塌山	2	0.2
郭麻日	0.3	不詳
向陽	不詳	0.2
年都乎	1.45	0.3
郎家河	1.2	不詳
新城東北	不詳	0.5
下庄	3	0.5～1
那曲	3	不詳
沙索麻	0.5	0.5
寺台	0.2	不詳

付表 1 馬家窯文化馬家窯類型（単純）集落・墓地表

1-A 集落表

遺 跡 名	面積 (万㎡)	遺物包含層 (m)
浪家溝	2.5	不詳
(尖扎県)		
羅窪林場後	2.5	0.3～1.5
如什其北	不詳	
過巴灘	1.4	0.3
下李家	2	0.5
牙那洞	2.3	1.2
牙那洞東南	2.5	0.3
格日西	0.1	不詳
如其灘	0.6	0.4
(貴徳県)		
拉沙台	0.5	0.1～0.3
下羅家	不詳	0.4～0.5
下排	2	0.7
尼多崗	0.48	0.3
(興海県)		
二台	0.5	不詳
羊圈台	18	0.1
下灘	3.75	不詳
(貴南県)		
増本卡	2.8	0.3～0.5
森多南	0.4	不詳
麻尼湾	0.02	
焼炭溝	0.025	
高粱頂	0.05	

1-B 墓地表

墓 地 名	面積 (万㎡)
(楽都県)	
小嶺子墓群	1.2
脳庄墓群	0.3
(化隆県)	
参果灘墓群	0.48
土橋坡墓群	1.5
共和県	
恰卜恰墓群	0.8
(貴徳県)	
查義山墓群	2
孫家溝墓群	3
者麻昂墓群	2
羅漢堂墓群	3.5
(興海県)	
香讓溝墓群	0.72

2.5 m) の面積は1.2 万㎡で、小型ものである一方、厚さの最も薄い興海県羊圈台遺跡 (0.1 m) の面積はちょうどこの時期の最大規模の18 万㎡である。面積第二の大通県後子河遺跡 (10.5 万㎡) の遺物包含層の厚さも0.5 mで、それほど厚くはない。理論的言うと、集落の規模 (面積) と遺物包含層の厚さとの関係が正比例で、集落の規模が大きければ移転がし難くなり、存続時間が長くなって、残られる遺物包含層も厚くなるのではないかと考えられる。逆に遺物包含層の厚さによって集落の存続時間を推計することも将来性のある研究方法であるのではないかと考えられるが、暫らく着手し難いのも事実であろう。

しかし、地域間の規模 (面積) や遺物包含層の厚さの比較が可能であり、一定の意義もあると考えられる。例えば、大体同じ時期 (時代) の黄河中流地域の仰韶期文化と比べて見よう。仰韶文化に属する集落遺跡の遺物包含層は最も厚いところが7 mにも達し (甘肅省天水市西山坪)、一般的な厚さが1 m－3 mで、約70%を占め、厚さ1 m未満のものが21.2%となっている⁽²⁾。ここからは、大体同じ時期の青海高原の馬家窯文化時期集落の遺物包含層の厚さは比較的薄いことがわかったのである。更に、ここからは黄河中流地域の

(2) 中国社科院考古研究所甘肅工作隊：「甘肅天水地区調査紀要」、『考古』1983年12期。

拙著：『黄河流域聚落論稿』78頁、知識出版社1999年12月。

仰韶文化時期より馬家窯文化時期の集落の存続（使用）時間は比較的短く、集落の移転がしばしば発生していたのではないかと考えられても成立できるだろう。

(2) 墓地

単純な馬家窯文化時期の墓地は青海高原で10ヶ所が報告されている（付表1-B）。このほかに、他の時期の墓と重なっているものが大量に発見されているが、ここではこの10ヶ所の単純な馬家窯文化時期の墓地に絞って検討を加えたい。

この10ヶ所はすべて面積のデータがあって、最大3.5万 m^2 （貴徳県羅漢堂）から最小0.3万 m^2 （樂都県脳莊）まで様々である。

この時期の墓地規模と集落規模との関係についてだが、集落の総数が墓より多く、その規模（面積）が墓地のそれ（面積）をはるかに上回っている。これは残されている馬家窯文化時期遺跡の一つの特徴であると指摘しておきたい。

墓地面積の最大の貴徳県羅漢堂の（3.5万 m^2 ）近くには、同時期の居住（集落）遺跡がない（より遅い卡約文化の集落遺跡があるが）。18万 m^2 という最大の面積を持つ興海県羊圈台遺跡の近くには同時期の墓がない。集落遺跡と同時期の墓地を同時に持つ遺跡は1ヶ所だけで（化隆県参果灘）、集落面積が0.35万 m^2 で、遺物包含層の厚さが0.5mで、墓地の面積が0.48 m^2 である。集落と墓地のいずれも小型だが、墓地の規模が集落遺跡より少し大きいと分かった。これは実に稀な例であると指摘したい。

(三) 半山文化時期

青海高原には半山文化時期のみの集落遺跡は12ヶ所があり、墓地は3ヶ所ある（付表2-A, 2-Bを参照）。三つの新石器考古文化時期の中で最も少ない。

(1) 集落

a. 規模（面積）

12ヶ所の単純半山時期の集落遺跡の中に、「面積不詳」の1ヶ所を除いて、すべて面積のデータがある（付表2-A）。

最大の面積は4.75万 m^2 （同徳県兔児灘）で、最小の面積は0.06 m^2 で（民和県黒圈）、いずれも5万 m^2 未満の小型のものである。

この中で1万 m^2 以下は6ヶ所、面積データのある11ヶ所の中で55%を占め、全12ヶ所の中では50%を占める。600 m^2 という最小面積は馬家窯時期の最小面積の200 m^2 よりは少し大きい。

青海高原では、半山文化時期の集落は数が少ないだけでなく、規模も比較的小さい。面積（規模）から見れば、すべてが小型集落であり、この時期における考古学文化の一つの特徴といえよう。

しかし、報告例が少なすぎて、全貌がまだ見えてこない。

付表 2 馬家窯文化半山類型（単純）集落・墓地表

2-A 集落表

遺 跡 名	面積 (万㎡)	遺物包含層 (m)
(平安県)		
西 營	1.2	0.2～0.8
(民和県)		
総 塚	2	0.5
河西庄東南	0.8	0.5～1.2
関方溝	不詳	不詳
黒 圈	0.06	0.5
巴 塚	0.15	不詳
甘家溝塚	0.5	不詳
(同仁県)		
上 吾 屯	0.63	0.14
科什蔵	0.5	不詳
尖扎県直崗拉卡	2	0.4
同徳県兔児灘	4.75	0.4
化隆県雪麻	1.2	0.2

2-B 墓地表

墓 地 名	面積 (万㎡)
(楽都県)	
華家嶺墓群	0.48
大湾墓群	0.8
(民和県)	
田家墓群	4.5

ただ半数以上の集落は1万㎡以下の最小型であることは、馬家窯文化時期及びより遅い馬廠文化時期にも同じ現象が見られることから、これは青海高原の新石器時代における集落の一般的な特徴だと言えるのではないか。つまり、1万㎡以下の集落規模（面積）が青海高原の新石器時代の最も代表的（一般的）な集落の規模だろうと考えられる。

b. 存続時間（遺物包含層）

全部12ヶ所の集落遺跡の中で、4ヶ所は厚さが「不詳」で、8ヶ所は厚さのデータがある（付表2-A）。

最も厚い所は1.2m（民和県河西庄東南）で、残りの7ヶ所はすべて1m未満で、最も薄い所はわずか0.2mである（化隆県雪麻）。

厚さ最大（1.2m）の民和県河西庄東南集落遺跡は面積が0.8万㎡であり、一方で面積最大の同徳県兔児灘遺跡は（4.75万㎡）遺物包含層の厚さが0.4mである。集落の規模（面積）と遺物包含層の厚さとは、必ずしも比例していないことが再び分かったのである。

(2) 墓地

単純な半山時期の墓地は3ヶ所だけで（付表2-B）、面積がそれぞれ0.48万㎡、0.8万㎡と4.5万㎡である。

4.5万㎡という墓地の面積は、この時期の大多数の集落遺跡面積を上回るだけではなく（同徳県兔児灘の4.75万㎡より少し小さいだけで）、馬家窯文化に属する三つの文化タイプ（時期）のすべての墓地と比べても、比較的大きいものである。

一般的に、死後の集中埋葬地の近くに同時期の集落があるはずだと考えられるが、同墓地（民和県田家）の近くで発見されたのは馬廠文化（タイプ）と卡約文化（青銅器時代）の集落遺跡（遺物）の積み重なり（面積1.5万㎡⁽³⁾）で、半山文化時期の集落遺跡（遺物）は発見

されていない。もし、調査のミスではないならば、この墓地と同時期の集落の遺跡が徹底的に破損され、少しも痕跡が残っていないためであると考えられる。

（四）馬廠文化時期

青海高原に単純な馬廠文化時期の集落遺跡は130ヶ所あり、墓地は68ヶ所ある（付表3－A，3－Bを参照）。馬家窯文化に属する三つの文化タイプ（時期）の中で、いずれも最も多いものである。

（1）集落

a. 規模（面積）

130ヶ所の集落遺跡の中、「面積不詳」あるいは空白のままのものは11ヶ所あり、119ヶ所は面積のデータがある（付表3－A）。

この119ヶ所の中で、最大の面積は10.5万㎡（民和県羊羔灘）で、最小の面積は0.04万㎡（民和県洒力池東南）である。

10万㎡以上の大型集落遺跡は前出の民和県羊羔灘1ヶ所だけで、面積データのあるものの中で0.84%を占め、全部130ヶ所の中で0.76%を占める。

その次は6万㎡で、2ヶ所ある（民和県光覺寺塬東・民和県上紅莊）。また、5万㎡および5.25万㎡のものは1ヶ所ずつあり、つまり5万㎡以上10万㎡未満の中型の集落遺跡は合わせて4ヶ所あり、それぞれ3.4%，3.1%となっている。

このほかは、すべて5万㎡未満の小型の集落遺跡で、全部で115ヶ所あり、それぞれ96.6%，88.5%となっている。また、この115ヶ所の小型の集落遺跡の中では、約半分の57ヶ所は1万㎡以下の最小型のもので、それぞれ47.9%，43.8%を占める。

三つの文化時期の集落遺跡の数はそれぞれ異なるが、全体に占める割合はかなり接近している。小型集落（遺跡）が多数を占めていることが一致する上、1万㎡以下の最小型集落（遺跡）の割合が大体半分だという点も一致している（馬家窯時期－半山時期－馬廠時期はそれぞれ54.9%－55%－47.9%）。

前にも論及したように、遺跡は長い年月を経ていたため、程度が違うが、いずれも破損されている。仮にその破損される確率がほぼ同じとすれば、上記の非常に近い割合が偶然なものではなく、ある法則が現れていると考えられる。また、この現象は当地域の特徴を表しているとも考えられる。例えば、筆者が黄河流域全域の仰韶文化時期の集落（遺跡）⁽⁴⁾に対しても同じ方法で研究を行ったが、結論はかなり異なっているのである。

b. 存続時間（遺物包含層）

130ヶ所の単純な馬廠文化時期の集落遺跡の中で遺物包含層が報告されているのはほぼ

✓（3）（6）『中国文物地図集青海分冊』の「文物単位簡介」66頁。

（4）（9）拙著：『黄河流域聚落論稿』第四章・第八章を参照，知識出版社1999年12月。

付表 3 馬家窯文化馬廠類型（単純）集落・墓地表

3-A 集落表

遺 跡 名	面積 (万㎡)	遺物包含層 (m)	遺 跡 名	面積 (万㎡)	遺物包含層 (m)
(平安県)			新庄子	2.5	0.5～1
駱駝堡西南	0.5	不詳	張鉄水庫北	0.5	不詳
(楽都県)			加仁	0.5	0.4
水磨營	0.8	0.5	下庄	1.5	1.5
陳家	0.96	0.5～1	路家堡東	0.5	不詳
晁馬家	2	0.5～1	小下塬	0.75	不詳
馬家	0.5	0.5	路家堡南	不詳	不詳
新盛東	0.4	0.5	胡拉海	2	不詳
扎門子	0.8	0.5	下百戸	2.25	不詳
腦和山	0.06	0.6	楊家埡豁	0.8	0.3
高粱頂	0.48	1～1.3	泉兒湾	0.25	不詳
白崖子	1.2	0.5～0.8	馬黄坡	1	不詳
西湾	3	0.5	陽山東	1.5	不詳
卯寨溝	0.05	0.5	地湾山	0.32	不詳
西台	0.9	0.5	沙巴溝	0.4	不詳
沙溝	0.4	不詳	秦家塬	4	不詳
磨崖頭	4	0.5	池丙塬	3	不詳
断頭崖	0.4	0.6	李家陽山	0.8	不詳
老鴉	3	0.4	白家南	0.2	0.2～1
老鴉東	0.4	0.5～0.8	白家	1.2	0.2
峽口	0.8	0.5～0.8	塬坡塬	3	0.3～0.8
馬家營	0.4	0.5～1.5	三家塬	3.75	不詳
大寨子	1.8	0.5～1.5	総堡北	3	不詳
大寨子東	1.8	0.5～1	総堡東北		不詳
姜湾	0.6	0.5	台爾哇	不詳	不詳
漢庄子南	0.8	0.5～1	馬家塬	1.5	不詳
漢庄子北	1	0.5	馬家塬村北	1	0.5～0.8
後窪	0.25	不詳	李家塬西	1.6	1
七里店	0.8	0.3	潭家	3	不詳
申家台	0.8	1	光覺寺塬東南	3.75	不詳
湯官營	0.5	0.3～0.8	光覺寺塬	0.15	不詳
賈湾北	0.3	0.8	光覺寺塬東	6	不詳
東崗	0.25	0.7	樊家灘	1.2	0.4～0.6
杏樹溝	0.2	1.5	甜草溝	5.25	0.5
辛家	0.76	0.5～1	坡塬	不詳	0.2
西坡	3	0.5～1	戴家	0.25	不詳
本康嶺	0.65	不詳	下牙洒	不詳	
(民和県)			黒圈北	0.2	0.2～0.5
川口	不詳	不詳	李家嶺	1	不詳
川口大庄東北	0.3	不詳	三台地	2	不詳
三台	0.18	不詳	白家山	1.05	不詳
河西庄東	5	0.3～0.8	哈家圈	2	不詳
巴塬東	1.5	0.2～0.5	元莊	2	1.4
果園村	3	不詳	隆家	1	0.4
張家台	3	不詳	兒官北	2	1.4
山金台	1.6	不詳	韓家北	0.9	不詳
古鄯東	不詳	不詳	邦塘	不詳	不詳

付表3 馬家窯文化馬廠類型（単純）集落・墓地表

3-A 集落表

遺跡名	面積 (万㎡)	遺物包含層 (m)
大庄三社	2.25	不詳
陳家西北	0.25	不詳
団庄	2.25	不詳
巴家頭	1.5	0.2
鐘家	3	0.7～1.2
安家	1.5	0.2
黄土山	0.24	不詳
下川口溝	2.5	不詳
下川口西	2	不詳
陽盤溝	0.5	0.2
座座塬溝	0.25	不詳
下川口南	2.25	0.5～1
香水溝	不詳	不詳
三条溝	0.5	不詳
楊家湾	3	不詳
王家嶺	0.25	不詳
黄池陽山	0.15	不詳
徐家	0.5	0.2
巴州東南	不詳	不詳
巴家塬	2	

遺跡名	面積 (万㎡)	遺物包含層 (m)
二台地	0.4	0.2～0.5
羊羔灘	10.5	不詳
羊羔灘東	2	不詳
上馬家	3	0.5
尕高崖	3	0.5～1
洒力池東北	0.4	不詳
洒力池	1.04	不詳
洒力池東南	0.04	
南塬北	1.5	不詳
甘家	1.5	不詳
範家北	1	0.5
拱巴塬	3	0.5～1
下紅庄東	0.48	0.3～0.5
上紅庄	6	0.2
民主村東北	1	不詳
硤口張家	0.8	0.8
昂光堂	0.8	不詳
循化県吾羌	不詳	不詳
尖扎県藏昂台	0.75	不詳

3-B 墓地表

墓地名	面積 (万㎡)
(平安県)	
石溝沿墓群	1
三合墓群	0.25
新庄墓群東西長	60 m
駱駝堡墓群	1.6
(楽都県)	
羊腸溝墓群	3
郎家墓群	1.2
葉水溝墓群	1.5
大皮袋溝墓群	1.5
大崖溝墓群	1.5
田蒲家墓群	1.5
新盛墓群	0.5
大陽坡墓群	0.56
段堡子墓群	2
顧家嘴墓群	0.5
崖湾墓群	0.25
趙家庄墓群	1
賈湾墓群	1.2
瓦窯嘴墓群	0.54
乱山溝墓群	1.5
小早台墓群	0.3
吳家溝墓群	0.54
千戸台墓群	0.6
斑家溝墓群	0.5

墓地名	面積 (万㎡)
侯白家墓群	0.5
李家台墓群	1
庄子墓群	1.5
大頂墓群	0.5
山城墓群	0.8
(民和県)	
中庄墓群	2
路家堡墓群	1.2
上庄墓群	0.4
官戸台墓群	2
下古岱墓群	1.2
武家墓群	0.5
白武家墓群	0.27
李家陽山墓群	2.25
李家塬墓群	5
灰山塬墓群	1.2
橋頭墓群	2
馬家塬墓群	0.3
王家塬西北墓群	2.5
下塬坡墓群	6
冉家墓群	2
總塬墓群	1.5
光覺寺塬墓群	6
塬坡墓群	1.2
下坡墓群	1.2

墓地名	面積 (万㎡)
鄧家墓群	2
陽溝坡墓群	0.24
塔湾墓群	0.75
兒官墓群	10
陶家墓群	0.8
单家溝墓群	1
蘇家庄墓群	0.2
小焦土墓群	2
黄池陽山墓群	1.2
碱水溝墓群	0.5
鉄家墓群	2
南塬墓群	2
後庄墓群	0.12
李二堡墓群	不詳
拱巴塬墓群	1.5
崖湾墓群	0.4
(互助県)	
乱灘山墓群	1.04
燕兒台墓群	0.3
(化隆県)	
文卜具村西墓群	1.5
貢什加墓群	1.2
水庫灘北墓群	1.6

半数の63ヶ所で、「不詳」あるいは空白とされるのは67ヶ所である（付表3-Aを参照）。

遺物包含層の最も厚い所は1.5mに達し、2ヶ所ある（楽都県杏樹溝と民和県下荘）。厚さが1mを超えるものはそれほど多くなく、21ヶ所で（上述の2ヶ所を含む）、厚さのデータのある63ヶ所の34.3%を占める。

その他の42ヶ所は厚さがすべて1m未満のもので、66.6%を占める。最も薄い所は0.2mで、6ヶ所ある。

厚さが1.5mに達する2ヶ所は、集落遺跡の面積がそれほど大きくない（楽都県杏樹溝の0.2万㎡と民和県下荘の1.5万㎡）。集落遺跡面積最大の民和県羊羔灘遺跡（10.5万㎡）は遺物包含層の厚さが「不詳」である。

論理上、遺物包含層が厚いならば、集落の継続使用時間が長く、集落の面積も比較的に大きいはずだと考えられるが、これを実証する方法は今の段階ではまだない。

(2) 墓地

馬廠文化時期の墓地の数は集落遺跡の数と同じように、三つの文化時期（タイプ）中で最も多い。

単純馬廠文化時期の墓地は全部で68ヶ所ある（付表3-Bを参照）。面積「不詳」の1ヶ所と統計上無意味の「東西の長さが60m」との1ヶ所を除いて、面積のデータがあるのは66ヶ所である。

その中で規模の最も大いのは10万㎡に達する墓地群である（民和県児官）。その次の規模は6万㎡で、2ヶ所あり（民和県下塬と光覚寺塬）、以下5万㎡で、1ヶ所ある（民和県李家塬）。

上記のほか、墓地面積が1万㎡を上回るものは37ヶ所ある。上述の4ヶ所を足して、1万㎡を上回る墓地が全部で41ヶ所あり、面積データのある66ヶ所の62%を占める。

墓地面積の最も小さいものは0.12万㎡である（民和県後荘）。

年代のより早い馬家窯時期と半山時期に比べると、馬廠時期の墓地の数が最も多い上、規模の大きい墓地の割合も多く、単独墓地の最大面積の数値も最も大きい。墓地の規模という意味からすると、一種の「発展」と見なすことができると考えられる。

では、墓地規模と集落遺跡規模との間の関係を検討して見よう。

墓地面積の最大の民和県児官墓地群の近くでは、先史時代の「児官集落遺跡」も発見されているが、年代のより遅い齐家文化と青銅器時代のものであるため、⁽⁵⁾ 比べることができない。この「児官集落遺跡」の所在（位置）についての詳しい説明は、「前河郷児官村東」とあるが、児官墓地（群）の位置は「前河郷児官村北」となっている。しかし、付表の3-Aに同県「児官北」という名前の集落遺跡に注目したい。この「児官北」集落遺跡は単純馬廠文

(5)『中国文物地図集青海分冊』の「文物単位簡介」75頁。

化時期のもので、面積が2万㎡で、遺物包含層の厚さが1.4mで、所在（位置）は「前河郷児官村北400メートル」⁽⁶⁾となっている。この位置は同じ単純馬廠文化時期の児官墓地（群）の位置である「前河郷児官村北」⁽⁷⁾とは、「400メートル」の距離があるものの、実にそれほど離れておらず、かなり近いのである。そうすると、実はそれは当時の居住集落とそれに属する（死後の居住地としての）墓地であるとの可能性が十分に考えられる。確かな結論だとは言えないが、もしこのように考えることができれば、墓地の10万㎡と、集落（遺跡）の2万㎡が「セット」になるわけである。しかし墓地が集落より大きい「結果」になることは、普通では考えにくく、いささか疑問も感じられる。集落（の遺跡）が破損されたとすることは、一つの「原因」として考えられるが、問題がこれで解決されたとはとうてい思わない。

集落（遺跡）面積の最大の民和県羊羔灘（10.5万㎡）の近くでは、それと「セット」となる墓地が発見されていない。この集落は最大面積の10万㎡（民和県児官墓地）を有する墓地に近いが、それぞれ異なる場所にあるため、両者間の繋がりが薄いと思われる。ここで特に指摘しておきたいのは、残されている馬廠文化時期の集落（遺跡）と墓地が、これほどの大きな規模なものがあるということである。

（五）結 語

青海高原の新石器時代の馬家窯文化の三つのタイプ（時期）の全般状況をまとめて見よう。

（1）集落遺跡の数については、馬廠時期のものが最も多く（130ヶ所）、その次は馬家窯時期のもの（109ヶ所）で、半山時期のものは最も少ない（12ヶ所）。その中、大型と中型の集落遺跡の数は、馬家窯時期のものは比較的多く（2ヶ所、7ヶ所）、馬廠時期のものがそれに続き（1ヶ所、4ヶ所）で、半山時期のものはない。

（2）集落（遺跡）の最大規模（面積）については、馬家窯時期のものは18万㎡に達し、馬廠時期のものは10.5万㎡で、半山時期のものは4.75万㎡である。

年代から見ると、馬家窯時期と馬廠時期の間にある半山時期は集落遺跡の数が少ない上、規模（面積）も小さく、すべて小型である。この特徴は、半山時期の集落は他の二つの時期より、存続時間が短く、移転がしばしばであったことを物語っているかもしれない。

三つの文化時期の集落遺跡の数と規模はそれぞれ異なるが、非常に似ている現象が一つある。それは1万㎡以下の最小型の集落遺跡が三つの文化時期に亘ってほぼ同じく半分の割合を占めることである（馬家窯時期54.9%、半山時期55%、馬廠時期47.9%）。これは当地域の今まで最も完備した代表的な新石器時代集落遺跡の規模（面積）のデータであるが、どの程度当時の実際の状況を反映しているかは断言できず、更に多くの資料及び検討を待たねばならないと考える。

（7）『中国文物地図集青海分冊』の「文物単位簡介」84頁。

(3) 遺跡の存続時間（遺物包含層）については、最も厚い所は馬家窯時期のもの（2.5 m）で、その次に馬廠時期のもの（1.5 m）と半山時期のもの（1.2 m）となる。他の地域と比べると、青海高原の馬家窯文化の各時期の集落の遺物包含層の厚さは比較的薄いことが分かった。例えば大体同時代の仰韶文化に属す甘肅省天水の西山坪集落遺跡は遺物包含層の最も厚い所が7 mにも達し、⁽⁸⁾黄河流域全域の仰韶文化時期の代表的な遺物包含層の厚さが1－3 mで、全集落遺跡の約70%を占め、また、遺物包含層の厚さが1 m未満のものは⁽⁹⁾21.2%しか占めていない。つまり、遺物包含層の厚さはある程度集落の存続（使用）時間を反映しているとする観点から、黄河流域全域の仰韶文化時期と比べてみると、青海高原内の新石器時代（全馬家窯文化時期）の集落は存続時間が比較的短く、移転の頻度が比較的に高いのではないかと考えられる。

(4) 墓地については、馬廠時期は墓地の数が最も多く（68ヶ所）、馬家窯時期のものはその次（10ヶ所）で、半山時期のものは最も少ない（3ヶ所）ことが分かった。墓地の規模と集落遺跡の規模との関係については、法則的なものが発見されたとはまだ言えない。また、墓地の近くには同時期の集落（遺跡）が発見されていないケースが多い。その原因については今の段階では長い年月を経ているため、何らかの破損によるものだとしか解釈できないだろう。実はこの現象は決して当地特有の現象ではなく、むしろ同時期の集落（遺跡）と墓地が「セット」で発見されたケースが少ないと指摘したい。

年代のより早い馬家窯時期や半山時期と比べると、馬廠時期の墓地の数がかなり多く、その上、大面積を有する墓地の割合も大きく、最大面積をもつ墓地もこの時期のものであるということが分かった。また集落遺跡の数及び面積についても、規模が大きくなるという現象が見られる。年代の比較的遅い馬廠時期は馬家窯文化に属する三つの時期の中で最も繁栄した時期だと考えられる。

（8）中国社科院考古研究所甘肅工作隊：「甘肅天水地区調査紀要」、『考古』1983年12期。